

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201119		
法人名	社会福祉法人高陽会		
事業所名	グループホーム高陽園		
所在地	和歌山県紀の川市粉河951-1 (電 話) 0736-74-3116		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年11月1日

【情報提供票より】(平成19年9月7日事業所記入)

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建て	1 階 ~1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,800 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.44 歳	最低 69 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立那賀病院、金尾歯科医院、長雄整形外科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は国道24号線添いにあり、周辺にスーパーや官公庁がある便利な立地条件にある。その概観は和風であり、中は東の家(洋風タイプ)、西の家(和風タイプ)の2タイプの居室空間がある。玄関はそれぞれ別々で、タイプに応じた玄関作りである。家族・本人はもとより、そこで働く職員にとっても地域にない困る施設という雰囲気がかもし出されている。2ユニットある(和・洋式の)空間は、それぞれに個性をもたせてあり、落ち着いた雰囲気でお客を大切にしている居室を感じる。職員の入居者に対する対応もゆっくりと個を大切にしたいという姿勢がされており、時間がゆっくりと流れている。管理者・職員ともにチームワークもよくとれており、現場で聞こえてくる利用者・家族・職員の声サービスとして反映されやすいシステムがある。研修への職員参加率も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、「整理整頓をしすぎている」との意見を受け、管理者は共有スペースの食器をとりやすくしたり、花を置いたり意識され、職員も家庭的な雰囲気とは何かについてミーティング等を通じ、管理者とともに考える機会をもつようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	調査に関しては、特に気負いせず、日常やっていることをするよう管理者からの指示もでており、自然体な職員、施設環境を確認できた。時間がゆっくりと流れる中で、入居者も個性が輝いており、家庭らしさを感じられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議開催は初めてとのことであるが、グループホーム側から参加を積極的に働きかけていこうとしている姿勢が確認でき、その実績を積んでいくことの必要性が理解されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族心理が理解されており、家族へのアンケートやヒヤリング調査、第3者委員会など、あらゆる場面からの声を積極的に施設のサービス改善に結びつけようとする考え方がもたれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設がもつスペースを地域の交流スペースとして活用できるよう、すでに地域に対し、働きかけている。施設の中で待つのみでなく、入居者とともに地域へ買い物に出かけたり、地域の行事に参加したりと、地域に対し、見える活動が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	東の家では玄関入ってすぐのリビングに、西の家では玄関入ってすぐの空間に、それぞれの雰囲気にあわせてその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念が提示されている。	○	更に地域密着型サービスとして地域の関連性を強化した理念を作り上げることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、管理者かホーム長が職員の申し送りに出席し、理念の共有を図っている。職員間で話し合い、半年に1回の上司との個別面談にてその徹底に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の地域への開放ということで、併設の総合福祉センターと共に地域の交流スペースとして施設を活用いただくよう努めている。また、より地元の方との交流を図るため、地域の行事にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の調査結果を受け、管理者は食器を入居者に取りやすくしたり、空間に花を飾ったりするよう職員とともに勉強会等で意識の共有をし、職員も家庭的な雰囲気づくりができるよう意識し、入居者の私物持ち込みなどがよりできるよう努めている。調査時「日常やっていることを見てもらうように」と管理者の指示もでており、調査に対する意識の高さを感じることができる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されておらず、10月上旬開催を目標にしている。	○	初めての運営推進会議とのことであるが、グループホーム側からも開催を積極的に関係者へ呼びかけ、その開催実績を積んでいくことを期待したいところである。

NPO法人 認知症サポートわかやま

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回、市町村への変更届けなどの文書提出・実施指導以外にも、大きな事故・苦情が起こると市町村へ報告するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対し、体調不良や転倒事故が起こった時、本人が家のことが心配と言っている時などには、すぐに報告している。また、職員の異動情報なども家族に配布されている「風だより」という施設だよりで知らせている。預かり金が少なくなってきた時も適宜、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族向けアンケートを実施しているが、アンケートのみではおおまかな声になるかもしれないとのことで、面会時にも家族の声をヒヤリングにて拾うよう心がけている。また、第3者委員会にも施設外部の人に入って貰うようにし、苦情等の声に対応できるよう心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1・2回程度の人事異動がある。入居者に与える影響が大きいことを管理者も理解されており、異動時は1ヶ月間程度、新旧職員が引き継ぎに時間をとれるよう配慮している。また、退職者がでる場合においても、その引継ぎ時間が少しでも長くなるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じグループホーム同士の連絡協議会に職員は研修機会の一環として参加している。実践者研修などの認知症関係の研修ばかりでなく、うつ病の研修など幅広く参加している。研修会へは施設として積極的に参加し、外部研修へ行った者が内部にて伝達研修を行い情報の共有ができるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会研修会へ毎月1～2名程度の職員が参加している。	○	研修には法人として非常に力を入れているように見られるので、今後グループホーム同士で人的交換(一時的なトレード)研修をしていくのも、より効果があがる研修機会であることを理解されている。今後、その実施が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「納得して入って頂く」という対応ができるよう力を入れている。具体的には、事前にホームを見て貰ったり、同じ法人内のサービスを利用するなどしてホームの環境や雰囲気などをよく知ってもらってから入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という意識をもたずに、入居者と職員がともに協働しながら、生活をしている雰囲気が広がっている。食事作りでは、入居者に教えてもらいながら職員と入居者が共に調理をしているなど、生活場面に和やかさが感じられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向に基づいた生活を築く援助ができるよう、職員は努めている。具体的には日常生活の中で、入居者の言葉にならない声・表情にも注目し、その思いを把握できるよう努めている。また、当日の朝、急に入居者またはその家族から外出・外泊の要望がでて、滞りなく対応するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを月1回行い、「家での時、どういことを行っていたのか」という考えを大切に、管理者は家族に対し、入居者の過去や家族としての意向も聞きながらサービス内容の入った「具体的で分かりやすい」計画をつくるよう努めている。職員も日頃の入居者との関わりの中で新旧職員関係なく、入居者からの新しい発見を反映させた介護計画作りを心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、職員間で入居者の状況の変化がみられると判断した場合は、家族・入居者にもその情報の確認をしながら適宜、介護計画の見直しを行っている。また、介護計画の期間が終了する際にも見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設に併設してある通所介護・訪問介護を利用し地域で暮らしている認知症をもつ家族・本人に対しても、自宅での生活が限界になった時に、なじみの職員がいる環境へ住み替えの支援ができるよう適宜、その見学・相談の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療はグループホームのホームドクターが中心に対応に当たっている。その際の通院介助については、職員が適宜、対応している。また、入居前より専門医にかかっている場合は、その継続を奨励している。その際の通院介助は、原則、家族であるが家族都合により行けない場合は、職員が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療・家族・施設の関係の中で、家族には早くから状況を説明し、将来的にどういう意向かを聞き、家族の意向にできる限り添えるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉の虐待防止や、個人情報に関する勉強会を行っている。日常生活場面では入浴時、危険防止のため見守り支援に徹しながらも、入居者の肌が露出しないよう、さりげなくタオルをかけたり、トイレのドアが全開の状態をたしている場合は、さりげなく職員がドアを閉めるなど、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースではなく、入居者ペースで対応しており、ゆっくりした時間が施設内に流れている。語り口や話す雰囲気など、ゆっくりと入居者に合わせ、職員が話しかけをしており、入居者への接し方が非常に柔らかである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳準備、片付けなど、入居者ができる範囲で行っている。食事職員と一緒に会話しながら楽しく食べている。食事に使用する食器はすべて陶器製で、コップ・箸・茶碗は入居者のなじみの食器をそれぞれ使用している。献立表も冷蔵庫の入居者の目の届く範囲に自然に貼っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は13:00～19:30の間で自由に実施できるよう、職員の勤務ローテを工夫されている。またプライバシーに配慮し同性介助に努めている。入居者によって、入浴中、職員は外からと、内側のいずれかで見守りできるよう徹底している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴から、各入居者ごとの楽しみを施設内でも演出できるよう努めている。例えば、芋作りや季節の食べ物を植えたりする入居者がいたり、草木への水やり、玄関の水やりをする入居者がいたり様々な個人への支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、外出に力を入れている。特に、自発的に外出したいと希望のない入居者については、職員からも外出時、誘うよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関、居室、窓ともに鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は年2回、総合福祉センター全体で防災訓練を行うよう努めている。行政からも、施設が地域の避難場所となるよう、依頼を受けている。備蓄も2日分、確保している。職員も入居者の誤報通報に対する対応や、備蓄の置いている場所を認識できるよう、内部研修にて確認している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	殆どの入居者が自分で食事の後片付けをするので、職員がその際にさりげなく食事摂取量を確認し、後でチェック表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間には、吹き抜けがあり、適度に光が入り、ほど良い明るさである。東の家、西の家ともにフローリングの色やさりげなく飾ってある時計などもそれぞれ和・洋式の部屋に合ったものを使用し、自然な空間が広がっている。共有スペースから居室にかけての動線は、直に居室内が見えない配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前からの使い慣れたものを持ち込むことが自由であり、それぞれの居室には個性が広がっている。		